

取組の様子



水の需給バランスがくずれ
消失が懸念されるオルミエ湖

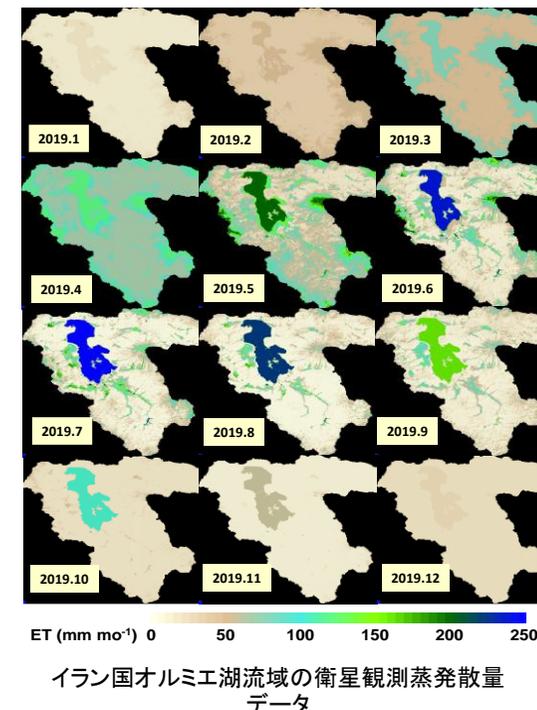


FAOによる衛星蒸発散量推定
セミナー(2021年)

特色ある取組

世界人口の増加や産業発展、気候変動などが、各地で水不足や水資源の不安定化をもたらしている。世界の水利用の7割を占める農業分野では、持続性を無視した水利用が、地下水の枯渇や湖沼の消失等、大規模の環境問題をひきおこしている地域もある。

人工衛星から地表面を観測し、各種の科学データを提供する取組が盛んにおこなわれている。農業水利用分野では、人工衛星で観測した地表面のエネルギーや温度情報から蒸発散量を推定する技術開発が進んでいる。蒸発散量データは、地域の水資源の持続性評価や作物の収量予測、水利用方法の改善検討などに利用される。宮崎大学では国内外の諸機関とも連携し、蒸発散量の推定技術の開発や、データの利用法の提案、教育、普及活動に取り組んでいる。



期待できる成果・評価 など

①世界中で蒸発散量のデータが手軽に使えるようになる。データの少ない途上国や紛争地域などにもデータ提供ができ、情報基盤の整備(SDGs #9)に大きく貢献できる。②各地で科学的な植生量や水消費のデータをもとに、自然環境・水資源・食料生産の現状を把握できる。適切な現状把握をもとに、持続性と開発の両立を達成するための戦略を策定できる(SDGs #15, #2)。

参考URL

- ・国連宇宙部 Space4SDGs HP
<https://www.unoosa.org/oosa/en/ourwork/space4sdgs/>
- ・オルミエ湖救済プログラム
<https://www.ulrp.ir/en/>

担当： 森林緑地環境科学科
多炭 雅博